

夢の設計図

やりたい仕事や実現したい夢

航空管制官

その仕事や夢を選んだ理由
大好きな日本の空で、国や人種に関わらず、たくさんの人の安全を守りたいと思ったから。

その仕事や夢を実現するために必要な条件(資格など)や力、お金はなんだろう
航空管制官試験合格・世界中のパイロットに正しく伝わる英語力・集中力、判断力、コミュニケーション力、仲間を大切にす力・学費、じゃく代

年齢	必要な能力を身につけるためにやること
12歳	小学校 放送委員会に所属しながら英語も日本語も正しい発音を身につける。たくさん人と仲良くなり、毎日集中して宿題をする。
13歳	中学校 放送部に入部する。英語力をみかく。スピーチコンテストへ挑戦する。
15歳	英検1級に合格する。
16歳	高校 高校入学、物理部に入部して、飛行機について勉強する。大学受験の勉強をする。
18歳	大学 飛行力学や気象の勉強をがんばる。アメリカとイギリスの大学に留学する。大学院へ進学する。
24歳	仕事 国家公務員 航空管制官 採用試験に合格し、航空保安大学で勉強し、資格を取得し、現場へ行く。
26歳	現場で研修して、航空管制官になる。
35歳	たくさんの先輩から学ぶ。 羽田空港で働く管制官になる。

仕事以外であなたが大人になったらやってみたいこと、実現したいこと

世界中の航空会社を使って、パイロットのアナウンスや飛行機の離着陸に注目しながら旅行する。

目線の先に見つけたぼくの夢

聖ウルスラ学院英智小学校 五年 中村 友馬

「どうしても行かなければならないの。」心配そうな顔でぼくを見つめながら母は言うが、ぼくが二人で生活しているために母が仕事を頑張ってくれていることを、最近では理解できるようになってきた。仕事の都合で海外出張へ向かう母を乗せた飛行機を祖父母と一緒に空港から見送ったとき、さみしさと一緒に不安な気持ちを抱いた。母を乗せたこの大きな飛行機がどうやって安全に大空へ飛び立ち、遠く離れた目的地まで飛び続けるのだろう。飛び立つ飛行機を見送ったばかりの目線の先には、大空に向かって高く真っ直ぐ立つ一つの塔が見えた。

あの日、ぼくには管制官になるという夢ができた。その仕事は、飛行に影響を与える天気や滑走路の状況を確認し、世界中の航空会社のパイロットと通信して、離着陸のタイミングを調整しながら指示をするというものだ。飛行機が離れた上

空を飛行中もレーダーを使い、その位置を常に正確に把握する。管制官は、信号も標識もない大空を飛行機が安全に飛行できるように指示を出すのだ。常に集中力を求められるが、緊急時には迅速な判断力も必要だ。世界一安全な乗り物とも言われる飛行機は、彼らの力とチームワーク、そしてパイロットとの信頼から成りたっていると思ふ。

この夏、自分の夢へ向かうルートを探索してみた。管制官になるためには、大学を卒業後に航空管制官採用試験に合格し、航空保安大学で研修を受けなければならない。そこで、気象や航空機の特性などの専門的な勉強をした後に現場で訓練を行う必要がある。世界中のパイロットと正しくコミュニケーションをとる語学力、仲間とチームワークを築く力、集中力や判断力も必要だ。ぼくの目的地までの地図を書きながら、現在の自分

も見つめてみた。雲や風など天気学習をした理科の授業では、理解できずに暗記して乗り切り、発音のあいまいな英語はそのままにして使っている。それに、毎日の宿題は集中力を持ち続けることができず、つい他のことに目が行ってしまふ。今のぼくは目的地に向かうどころか、まるで逆走をしまっている気がした。だからこそ、ぼくは書き上げたこの地図を携えて、自分の目でしっかりと目的地を見つめ、自分の確かな指示を出し、高く真っ直ぐ飛び立ちたい。

*こちらは、小学生『夢をかなえる』作文コンクールの「ライフプランシート」としても使えます。